

熊野古道八鬼山の町石を
たどるみち



起点 尾鷲市（JR尾鷲駅）
 終点 尾鷲市名柄（名柄バス停）
 延長 10.8km
 利用タイプ A



沿線の風景

JR尾鷲駅を出発し、市街地をぬけていく。尾鷲のロマンを象徴する尾鷲節の歌碑まで到着すると、そこから先は熊野古道最大の難所といわれた八鬼山峠となる。美しい尾鷲ヒノキの繁る石畳の道が続く山道は、七曲りと呼ばれる急坂や平坦な道を繰り返しながら頂上へと向かう。その道程には、伊勢御師が奉納した町石と呼ばれる地蔵尊が一町ごとにあり、頂上までの距離を教えてくれる。また人けのない山道にある茶屋跡や荒神堂は、当時の人々の往来の姿を連想させてくれる。頂上に出ると急に視界がひらけ、雄大な熊野灘を眺望することができる。峠を下って名柄の一里塚までくると峠の終了で、三木里の美しい海岸へ出てコースに終わりを告げる。

主な見どころ

尾鷲節歌碑、町石、行き倒れ巡礼墓碑、荒神堂、頂上桜広場、茶屋跡、名柄一里塚、三木里松林など

凡 例	
▲案内標識	Ⓜ休憩所（四阿）
●指導標識	◊展望施設
■公衆トイレ	Ⓟ駐車場
— 近畿自然歩道 - - - 近畿自然歩道（整備中・未整備） — 東海自然歩道	
【利用タイプ】 Aタイプ 山地等でやや体力を要するコース Bタイプ 山地、丘陵地を通過するコースで一般向きのコース Cタイプ 全体がほぼ平坦なコースで小さな子供でも利用可能なコース	

1: 25,000

